守山学区の課題・活性化の方向性

守山に住んで良かったと言われるまちづくり
人を中心としたまちづくり

〇地域で子育て・子どものつながりづくり
〇地域、家庭、学校が協力した子どもの教育を推進
〇自治会の横断的な連携
〇シニア世代の活用・活性化
〇住みやすさ日本一を目指す

急激なまちの変化への対応の遅れ

- のどかな田園都市の崩壊
- マンション建設による周辺住民への影響
- 旧在所周辺の宅地化
- アパート、マンションの老築化
- 工業地域における団地の減少

都市化による農業の衰退

- 都市計画税により農家の負担が増大
- 市街化区域指定により田が減少
- 農業の後継者不足
- 人口増加による公共施設の不足

道路整備が都市化に追いついていない

- 交通渋滞が多発
- 雨の日の駅周辺の渋滞
- 湖南幹線道路開通に伴う交通環境の変化
- 小学生の通学路が狭い
- ＪＲ横断部分の道路が危険

将来を見据えた計画的なまちづくり

〇活性化のためのルール変更
〇色の統一など景観の向上
〇人に優しい街づくり

駅前を中心とした急激な人口増加と旧住民の高齢化

- 地域によって進む高齢化
- 人口流入による年齢層の偏り
- 新興住宅の増加に伴う新住民の増加

人のつながりの希薄化

- 人のつながりがなくなった
- 賃貸マンション入居者の共助意識醸成
- 今後増加するサービス付き高齢者向け住宅に対する交流活動が課題
- 地域で縦横が繋がる遊びがない（子どもが１人ぼっちになっている）
- 子どもは多いが街に子どもの姿が見られない
- 地元小売店の減少により人づきあいの機会が減少
- ペットの飼い主のマナー不足
- 新興団地に伝統行事　寺，神社等がない

新旧住民の融合による
次世代を担う『人』の育成

〇昔からの慣習を変えるなど自治会活動の見直し
〇担い手の発掘

新旧住民の関わりが難しい

- 新住民との意識にギャップがある
- 住民増加により生活マナーの悪化

伝統行事や自治会活動の維持が難しい

- 高齢化が進み、町内の活動への参加者が減少
- 昔から伝わる伝承（遊びも）がなくなっている
- 民俗芸能は一旦消滅すると、復元は極めて困難。保存、伝承は不可欠
- 神社仏閣の末代までの維持保存
- 敬老会は行事が催せない
- 高齢者のパワーを活かす取り組みが不足
- 共稼ぎ世帯での地域活動をいかにするか
- 若い人の自治会ばなれ
- 若者の自治会活動への参加が少ない
- 自治会運営がむつかしい
- 自治会役員の成り手不足
- 各種団体への加入者が減少
- ＪＲで分断されて東西の交流がしにくい

身近な自然や川を守る必要がある

- コンクリの川壁になり，ホタルが少なくなった
- 先人の構築遺産である地域を巡る用水路をいつまでも維持管理していくことが大事
- 冬場の河川水両の減少
- 地域内の川に水がない

きれいな水やホタルを守る
地域の川や水路の維持

〇河川美化，ホタルの保護

豊富な歴史資源が活かされておらず、観光の目玉がない

- 史跡、神社仏閣などを地元民が知らない
- 古い街並みの消滅
- 観光客を受け入れられる状態ではない
- 活性化に使えるユニークな「食」に乏しい
- 伊勢遺跡をもっとＰＲすべき

伊勢遺跡や卑弥呼、食などをテーマとした
観光の活性化

〇全国に発信できる食の創造
〇伊勢遺跡や卑弥呼の活用による観光客誘致
〇中山道案内ボランティアのＰＲ・質の向上

（注）第３回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。